

20代男子が思う60代からのおしゃれ

# 60代フアツションを 知れば知るほど、 年を重ねるのも いいなつて思います

小学生の頃からフアツションが好きで、洋裁を仕事にしていた祖母をきっかけに、年を重ねた人のフアツションに興味をもったというMASA(マサ)さん(27歳)。友人のMARI(マリ)さん(27歳)を誘い、仕事の合間を縫っては、銀座や表参道へと出かけ、おしゃれな60歳以上を探しています。出会った「カッコいい人たち」を写真に納めるといふ活動を重ねるうちに「年をとるのも悪くない」と思い始めたそうです。

取材・文 中嶋信次(編集部)  
撮影 中西裕人(編集部)  
イラストレーション 谷山彩子

身の丈おしゃれで、こころ弾ませて





# 亡き祖母への敬意を込めて、おじいちゃん、おばあちゃんの魅力伝えたい。



房子さんの着ていたニット

房子さんの遺品として譲り受けたニットは斬新なボーダーがポイント。「20年ほど前の服とは思えません」(マサさん)



現在はマサさんが愛用中!

マサさんが祖母・房子さんと交流を深めたのは大人になってからのこと。社会人として独立したマサさんは房子さんの近所に住み、たびたび房子さんを訪ねるようになりました。房子さんはマサさんに対してひとりの大人として対等に向き合い、仕事の悩みや相談事を聞いてくれました。「大人と認めてくれたのもう

れしいですが、僕自身ファッション好きなのもあって、洋裁職人として働く祖母の姿への尊敬もありました。祖母の服はすべて手作りの1点もの。流行も関係なく、独特な雰囲気があり、今の自分のファッションに取り入れても、いいアクセントになると感じていました。そんな彼女の生き方を尊敬していました」

## 高齢者も若者も本質は変わらない

福祉関係に携わるマサさんは、多くの高齢者と接する中で、高齢者も自分たち若者と大して変わらない存在だと気づいたと言います。「小さな頃から高齢者は敬うものと教えられますが、もっと身近な存在でした。僕らと同じようにカラオケではしゃぐし、おしゃれも楽しみたいはず。そ

れなのに高齢者とひとくくりにされ、僕たちとはかけ離れた存在になっているのです」  
一方で、世間が抱く高齢者像は、将来への不安から下を向き、過去の栄光にすがりつくイメージ。ファッションも若く見せることが第一で、年を重ねることがマイナスであるかのように扱われます。そのため、「若い世代は年をとりたくないと思い、さらに高齢者を自分たちとは違う遠い存在に感じてしまうのです」。

マサさんが抱く認識と世間の高齢者像とにギャップを感じ始めた頃、最愛の房子さんとの突然の別れがマサさんへの襲います。昨年のことでした。「僕も大人として成長して、これからは祖母の力にもなれると思っていたときでした。今からでもできることはないかと、せめてもの気持ちで祖母への敬意を込めて、彼女と同世代の人たちの魅力を伝えたいと思いました。また、高齢でも魅力ある人を紹介することで、世間の認識と実態とのギャップを埋め、離れてしまった世代間をつなげる一歩



「若い頃は、黒が似合うと思っていたので黒い服ばかりを着ていました。髪の色が変わってきた頃から灰色やベージュのグラデーションを楽しむようになりました。今日のセットアップは、きものように二重になった襟がお気に入り。銀のねずみ色で統一し、ブローチやブラウスの印象で変化をつけて楽しんでいます」(房子さん)



になるのでは、とも感じました」  
こうしてマサさんは友人のマリさんを誘い、ふたりで魅力的だと感じる60代ファッションを紹介するブログを始めます。「誰でも服は着るものだから、程度の差はあっても、特に女性はおしゃれに関心のない人はいないと思います。だから、年齢に関係なく楽しめる。世代が違っていてもすて

## 60歳以上のココがカッコいい!

### 1

#### これまでの人生がファッションに表れる

コーディネーターが提案する服装をそのまま着れば、誰もが似合うというわけではないのが60代ファッションの魅力。「培ってきた経験がそれぞれ違うので、ファッションのベースも異なるんだと思います。年を重ねたからこそ似合うものや素材がそれぞれあり、誰もが似合う服装でない。要所が押さえられています」(マサさん)

### 2

#### 古いものを大切に着こなしている

新しいものも取り入れてはいるものの、多くの人が10年も20年も前に買った服をコーディネートに取り入れているのもポイントなのだそう。「良質のものを長く着こなすから、流行を取り入れても個性が失われません。60代ファッションの楽しみのひとつが自宅の箆箆に眠る宝をよみがえらせることかもと感じます」(マサさん)

### 3

#### ブランドがすべてじゃない

「全身ブランド品です! という人もいますが、僕がおしゃれだと思う60歳以上の人はみなさんノーブランドもブランドもうまく組み合わせています。だから、ブランド品でもそれが強く主張することがなく、全体で統一されて見えるんですね」(マサさん)。同じユニクロのTシャツでも、その人らしいおしゃれになるのだそう。



みやらはらあやこ  
宮原章子さん (71歳)





# 何歳でも、おしゃれは楽しめるんだって、 年を重ねることへの励みになります。

なもの、すてきですから。何も若く見せることだけが正解じゃないってことを伝えたいと思いました」

## 60代ファッションが注目され始めています

実際に街に出てみると、おしゃれな60歳以上を見つけたのはそう簡単ではなく、また、声をかけても写真を撮らせてもらえないことも多いのですが、苦労しながらすすきな人との出会いを重ねるうちに「年を重ねたからこそその60代ファッションの魅力がわかってきた」とマサさん。「同じ服を着たとしても、きつと僕ら若者には似合わない。着る人の雰囲気が大切なんです。自分が過ごしてきた時間があるからこそ、確立された自分らしさがファッションとして前面に表れてくるんだと思います」



「自宅を出るときには必ず全身鏡に映して、『どこもおかしくないかしら』とチェック。少しでも気になる場所があると、視線がやけに気になってせっかくの楽しいお出かけが台無しでしょう。今日は20年以上前に買った黒のスーツを軸に黒で統一しました。ひとつあると雰囲気が変わる帽子はおすすめ」(蓮音さん)

## うえはらはすね 植原蓮音さん (73歳)



協力してくれた人とは、手紙やメールのやり取りで交流を続けていると言います。「街に出る日は事前に連絡します。そうすると、出かけるついでに顔を見せてくれ、今日のファッションはね、と教えてくれます。知識も豊富で学ぶことも多いです。自分のおしゃれに自信をもって楽しんでる様子に力ももらえます。ただ、みなさんが精力的すぎて、もらった以上に僕らのエネルギーが吸い取られているような気がしますけど(笑)」



「黒いバルーン風のコートを基調に。少し変わったデザインで、手を入れているところはポケットじゃないんです。けど、そこがおもしろいでしょ。私は背が低いから、その欠点を補うように、いつもボトムに膨らみのあるラインを選んでます。ビームスといった若い子のブランドもよく着ますね」(禎子さん)



楽しむ雰囲気があれば、「僕らも将来に希望がもてるようになるはず」とマサさん。かつてカッコいい大人にあってはいる気持ちから子どもたちが早く大人になりたいと思つたように、「カッコいい60代ファッションが僕らの希望につながるのかなと思います。祖母に始まり、おしゃれな60歳以上の方たちと出会ううちに、

僕も年をとることへの不安がなくなり、悪くないかと思つていきます」

ブログから始まったマサさんの活動は若者の間で話題となり、60代ファッションの魅力がさらにその輪を広げています。「ありがたいことに春に60代ファッションが書籍化されることになりました」。広がりをみせつつある60代ファッションの魅力。「年を重ねたからこそそのファッションを楽しんでください」



## ふるやていこ 古谷禎子さん (67歳)

L'idéal ~リデアル  
<http://lidealjapon.wordpress.com/>



ブランドネームの「リデアル」とはフランス語で「あこがれや理想」という意味。年を重ねても魅力的な登場者への敬意を込めてつけられています。女性だけでなく、男性のおしゃれな方も大捜索中!